

電子廃棄物を再利用したアート

在ガーナ日本国大使館

ガーナの首都アクラには世界最大規模の電子機器廃棄場があります。ガーナには、毎月コンテナ 500 個分の中古家電や中古電子機器といった名目の貨物が先進国から陸揚げされますが、その大半は使い物にならないゴミだそうです。電子廃棄物には様々な有害物質が含まれているため、その輸出は国際法で禁止されているにもかかわらず、わずかな中古品の代わりに再利用できない大量の家電やパソコンが輸入されています。こうした電子機器廃棄物が行きつく先が、アクラ市内のアグボグブロシー地区です。

美術家の長坂真護さんは、この問題に立ち向かうべく、世界平和と環境保全の創造をスローガンに掲げ、アグボグブロシーの電子廃棄物を再利用したアート作品を制作すると共に、世界各地で講演や作品展を開催しています。昨年には同地区で働く住民らのために毒マスクを無償で配布する活動を行った他、住民の子供たちが無料で学ぶことのできる学校を開校しました。さらに今年は、同地区で長坂さんの電子廃棄物アートを展示する屋外ミュージアムを立ち上げる予定とのことで、日本はもちろんのこと、米国のメディアからも注目を集めています。

(了)